

令和7年度

秋田県公立高等学校入学者選抜
学力検査の抽出調査

〈分析と提言〉

秋田県教育委員会

刊行に当たって

秋田県教育庁高校教育課長 古屋 桃香

令和7年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査が去る3月5日に実施されました。この学力検査の問題は、次の基本方針等に基づいて作成されたものです。

- 1 基本方針
中学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第64号）に基づくものとする。
- 2 実施教科、検査時間及び出題内容
 - (1) 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とし、各教科の配点は、それぞれ100点とする。
 - (2) 各教科の検査時間は、国語、数学、外国語（英語）は各60分、社会、理科は各50分とする。なお、国語の「聞くこと」に関する検査及び英語のリスニングテストは、当該教科の検査開始と同時に10分間程度行う。また、数学では学校による問題選択制を一部取り入れる。
 - (3) 問題は、各教科の目標・内容に即し、基礎的・基本的な事項及びそれらを活用して課題を解決することについて、学習の成果が多面的にしかもきめ細かに把握できるように出題する。

この調査は、受検者の答案の中から8%を抽出し、教科ごとに分析したものです。入学者選抜学力検査という条件の下ではありますが、中学校における日常の学習成果及び指導上の課題を明らかにすることができたものと考えます。

教科ごとに、現状分析をするにとどまらず、授業で取り組むべきこともまとめましたので、各学校においては、学習指導計画及び学習指導方法等の改善のために、この調査を十分に活用されるよう望みます。

過去3年間の平均点の推移

年度 \ 教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計点	100点換算点
令和7年度	66.3	53.7	47.6	56.8	49.8	274.2	54.8
令和6年度	67.8	59.3	48.7	51.9	49.9	277.6	55.5
令和5年度	63.2	55.7	48.1	59.3	60.1	286.4	57.3

<参考資料>

令和7年度 学力検査合格者得点分布

総合

得点区分	(500) 499 ～475	474 ～450	449 ～425	424 ～400	399 ～375	374 ～350	349 ～325	324 ～300	299 ～275	274 ～250
比率[%]	0.2	1.9	4.8	6.4	7.2	6.6	7.8	8.4	9.3	9.1
得点区分	249 ～225	224 ～200	199 ～175	174 ～150	149 ～125	124 ～100	99 ～75	74 ～50	49 ～25	24 ～0
比率[%]	8.6	8.2	7.3	6.5	4.1	2.7	0.6	0.3	0.0	0.0

国 語

1 小問別の完全正答率と得点率

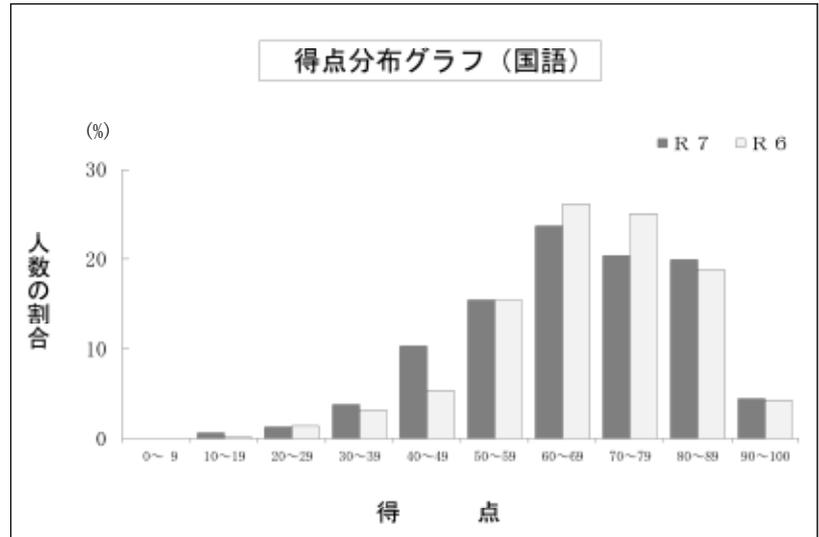
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
一	1	話合いの内容を正確に聞き取る	63.8												
	2	話合いの内容を正確に聞き取る	94.0												
	3	話合いの様子から、話合いの仕方を考える	91.0												
	4	話合いの内容を正確に聞き取る	81.8												
二	1	① 常用漢字を読む	91.9												
		② 配当漢字を書く	73.2												
		③ 常用漢字を読む	91.9												
		④ 配当漢字を書く	32.8												
	2	同じ意味の熟語を選ぶ	84.6												
	3	品詞名を書く	36.0												
	4	同じ構成の熟語を選ぶ	83.9												
三	1	a 本文の内容を捉える	84.4												
		b 本文の内容を捉える	85.4												
		c 本文の内容を捉える	82.4												
	2	(1) 本文の内容を捉える	83.1												
		(2) 本文の内容をまとめる	39.0												
	3	表現の工夫を捉える	55.2												
	4	本文の内容をまとめる	10.1												
四	1	本文の内容を捉える	85.0												
	2	本文の内容を捉える	76.7												
	3	叙述から登場人物の心情を捉える	15.2												
	4	(1)	a 本文の内容を捉える	85.9											
			b 表現の効果を捉える	70.9											
		(2) 本文の内容を捉える	38.1												
		(3) 叙述から登場人物の心情を捉える	10.7												
五	1	① 歴史的仮名遣いの読みを書く	86.9												
		② 歴史的仮名遣いの読みを書く	92.5												
	2	a 本文の内容を捉える	59.5												
		b 本文の内容を捉える	86.9												
		c 本文の内容をまとめる	65.5												
	3	本文の内容を捉える	49.0												
	4	本文の内容をまとめる	26.1												
六	経験を踏まえて、自分の考えを分かりやすく書く														

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（国語）

年度 段階	令和7年度	令和6年度
90～100	4.5	4.3
80～ 89	19.9	18.8
70～ 79	20.3	25.1
60～ 69	23.8	26.1
50～ 59	15.4	15.4
40～ 49	10.3	5.4
30～ 39	3.9	3.3
20～ 29	1.3	1.4
10～ 19	0.6	0.2
0～ 9	0.0	0.0
計	100.0	100.0
平均点	66.3	67.8
標準偏差	16.0	14.5



3 現状の分析

平均点は66.3点と昨年を1.5点下回った。本文の内容を的確に読み取り、自分の言葉で適切に表現できたかどうか得点の差となった。

- ① 「聞くこと」に関する検査では、考えの根拠を正確に聞き取ったり、話合いの仕方の工夫を捉えたりすることができていた。聞き取った内容を正確に記述することに課題が見られる。
- ② 言葉の特徴や使い方に関する事項では、漢字の読みや熟語の意味を捉えることはできていたが、漢字の書き取りや品詞の識別に課題が見られる。
- ③ 説明的な文章では、部分的な内容を読み取ることはできていたが、筆者の主張と根拠を読み取り、条件に応じてまとめることに課題が見られる。
- ④ 文学的な文章では、場面の展開や表現の効果を捉えることはできていたが、登場人物の言動などを手掛かりに心情を想像し、自分の言葉で記述することに課題が見られる。
- ⑤ 古典では、文章の大まかな内容を理解することはできていたが、二つの文章を読み、ものの見方や考え方の共通点を捉えることに課題が見られる。
- ⑥ 作文では、読書経験を踏まえて書くことはできていたが、読書の魅力に対する自分の考えを十分に表現できていないものも見られた。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】

- ・文章全体と部分との関係に注意しながら、文章の構成や論理の展開を捉え、内容についての理解を深める学習の充実を図る。
- ・叙述を根拠にして、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり感想を交流したりする学習の充実を図る。
- ・古典に親しむために、現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読み、新たな気づきを得たり、興味・関心を高めたりする学習の充実を図る。
- ・言語感覚を磨き、社会生活で使う語彙を豊かにするための言語活動の充実を図る。

- ① 主として説明的な文章において、具体と抽象の関係性などを踏まえながら論理の展開について話し合う活動を通して、筆者の主張を読み取る活動の充実を図りたい。
- ② 叙述に着目し、情景描写や登場人物の言動などから暗示的に表現された心情を読み取り、自分の解釈をまとめる活動や互いの解釈を交流し比較する活動を通して、文章を深く読み味わう活動の充実を図りたい。
- ③ 古典の原文に加え、現代語訳、解説した文章などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を読み取る活動の充実を図りたい。
- ④ 言葉の特徴や使い方に関する知識を広げ、話や文章の中で適切に言葉を使うことができるよう、言語活動の充実を図りたい。

社 会

1 小問別の完全正答率と得点率

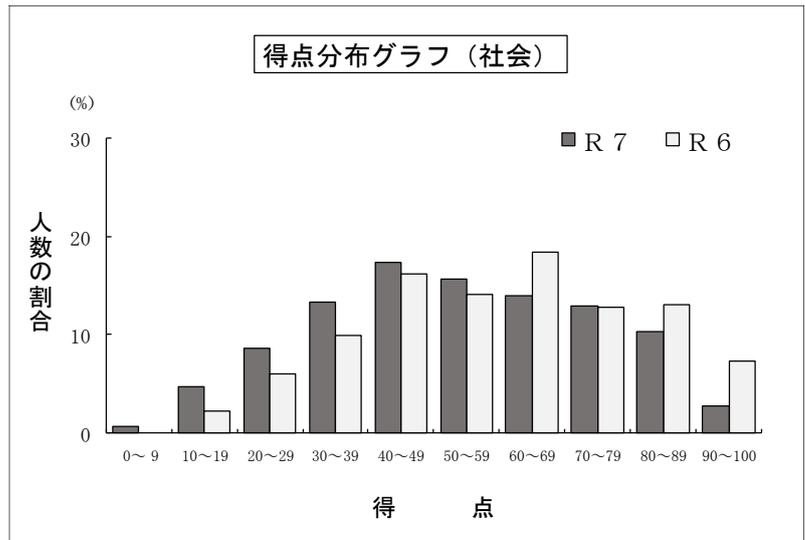
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	(1)	名称	地図に示された大陸の名称を答える	83.5											
		記号	地図に示された大陸を通る経線を選択する	50.1											
	(2)	雨温図が表す都市を地図から選択する	42.4												
	(3)	各州を比較する資料を基にアフリカ州を選択する	59.7												
	(4)	各州の農作物に関わる資料を基にヨーロッパ州を選択する	36.2												
	(5)	2か国に共通する貿易の変化について資料を基に説明する	35.3												
2	(1)	地図に示された県の県庁所在地名を答える	60.6												
	(2)	①	資料を基に政令指定都市を答える	43.3											
		②	資料を基に川がつくりだす地形を選択する	63.6											
		③	図を基に三大都市圏の人口割合の特色を説明する	71.5											
	(3)	地図と表を基に福岡県を選択する	47.1												
(4)	資料を基に都市への人口移動の特色を説明する	49.0													
3	(1)	古墳時代の社会の様子について述べた文を選択する	74.7												
	(2)	大化の改新を進めた人物名を答える	41.3												
	(3)	資料を基に天平文化の特色に関する語句を選択する	45.6												
	(4)	日宋貿易を行うために整備した港の位置を選択する	40.9												
	(5)	資料を基に琉球王国が行った中継貿易の特色を説明する	27.8												
	(6)	室町時代の産業の特色について述べた文を選択する	40.0												
	(7)	あ	鎖国の完成に向けて幕府が行ったことを答える	94.2											
		い	鎖国の完成に向けた幕府の動きの目的を答える	26.6											
	(8)	①	外国船の動きに対し幕府が出した法令名を答える	35.8											
		②	19世紀初め頃の日本の様子について述べた文を選択する	45.6											
	(9)	資料を基に日本の産業革命の様子について説明する	22.1												
	(10)	米騒動の背景にあった世界のできごとを選択する	51.4												
(11)	世界恐慌から第二次世界大戦に至る過程を順に並べ替える	32.1													
(12)	資料を基に独立後の日本の外交について説明する	15.8													
4	(1)	秋田県の取組と日本国憲法第14条に共通する語を答える	79.4												
	(2)	条例を定めることができる機関を選択する	49.3												
	(3)	男女間の平等と合計特殊出生率との関係を説明する	67.9												
	(4)	図を基に我が国の選挙制度を答える	46.0												
	(5)	示された内容に該当する国会の種類を選択する	63.8												
	(6)	図を基に年代別の投票者数を比較して選択する	80.1												
	(7)	図を基に選挙における課題を説明する	61.7												
	(8)	サービスを示すものを選択する	84.8												
	(9)	利潤のうち株主に分配されるものを答える	58.0												
	(10)	政府の経済活動に関わる内容の組み合わせを選択する	57.4												
	(11)	図を基に我が国の財政構造を説明する	27.4												
	(12)	図と世界の人口を基に飢餓人口の数を求め選択する	57.2												
	(13)	図を基に我が国の食品廃棄物量の現状を説明する	28.7												

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（社会）

年度 段階	令和7年度	令和6年度
90～100	2.9	7.3
80～89	10.3	13.0
70～79	12.8	12.8
60～69	13.9	18.4
50～59	15.6	14.1
40～49	17.3	16.2
30～39	13.3	9.9
20～29	8.6	6.0
10～19	4.7	2.3
0～9	0.6	0.0
計	100.0	100.0
平均点	53.7	59.3
標準偏差	20.9	20.7



3 現状の分析

前年度に比べ、80点以上の層が減少し、平均点は5.6点低下した。基礎的・基本的な知識及び技能の習得に一定の成果は見られたが、資料から必要な情報を的確に読み取り、社会的な見方・考え方を働かせて解釈し、適切に表現することに課題がある。

- ① 大問1(4)は、世界に占める各州の農作物の生産割合について、その特色を読み取り、習得した知識などに関連付け、選択する問題である（完全正答率 36.2%）。それぞれの農作物の生産割合の特色について、多面的・多角的に考察することに課題がある。
- ② 大問2(3)は、資料から各道県の特色を読み取った上で、習得した知識などに関連付け、選択する問題である（完全正答率 47.1%）。各道県の特色について、地理的条件から多面的・多角的に考察することに課題がある。
- ③ 大問3(5)は、琉球王国が行った中継貿易の特色について、地図や資料を基に説明する問題である（完全正答率 27.8%）。複数の資料から読み取った情報を、既習内容と結び付けて考察し、適切に表現することに課題がある。
- ④ 大問4(11)は、歳出と税収、国債発行額の推移を示す資料から、我が国の財政構造の課題について説明する問題である（完全正答率 27.4%）。資料から現代社会に見られる課題を読み取り、適切に表現することに課題がある。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】 ・単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、社会的な見方・考え方を働かせて課題を追究したり解決したりする学習活動を展開する。
 ・資料から必要な情報を読み取って的確に解釈し、それらを基に社会的事象の特色や意味、事象間の関連について考え、適切に表現する学習活動を展開する。

- ① 地理的分野では、地理に関わる事象を、位置や分布などに着目して捉え、思考・判断したことを説明したり、議論したりする力を養うことが大切である。資料から読み取った情報や習得した知識及び技能を関連付け、地理的事象の特色や意味について多面的・多角的に考察し、表現する学習の充実を図る必要がある。
- ② 歴史的分野では、各時代を大観して、時代ごとの政治や経済、社会の特色について多面的・多角的に考察し、的確に表現する力を養うことが大切である。歴史的事象を時期、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して捉え、事象の意味や意義、事象間の関連、各時代の特色について考察したり、適切な用語を用いて表現したりする学習の充実を図る必要がある。
- ③ 公民的分野では、社会的事象についての意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて考察し、表現する力を養うことが大切である。よりよい社会の形成を視野に、事実を基に多面的・多角的に考察、構想したことを説明したり、論拠を基に自分の意見を論述したりする学習の充実を図る必要がある。

数 学

1 小問別の完全正答率と得点率

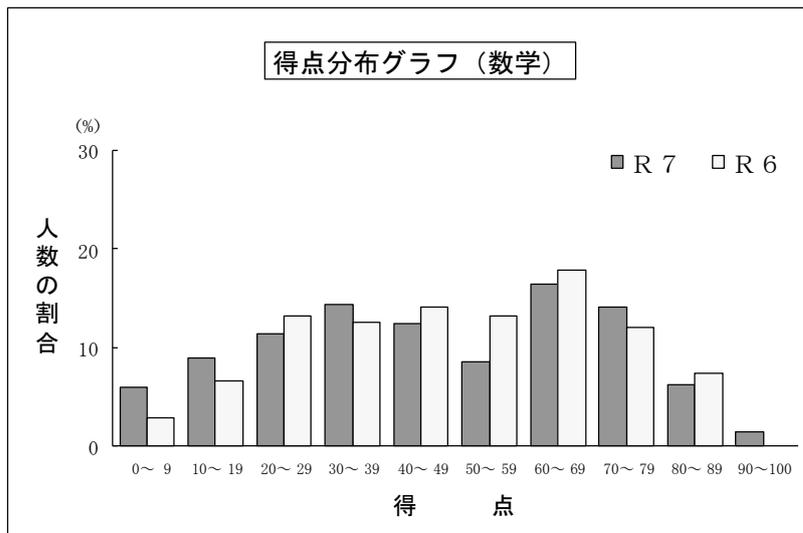
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)		選択率 (%)
				0	100	
1	(1)	正負の数を計算する	88.4			25.9
	(2)	1次式を計算する	86.1			64.7
	(3)	数量の関係を不等式に表す	75.1			49.9
	(4)	等式を変形する	60.3			24.8
	(5)	根号を含む式を計算する	75.3			79.7
	(6)	連立方程式を解く	84.6			80.7
	(7)	2次方程式を解く	56.3			68.5
	(8)	式の値を求める	51.2			36.8
	(9)	標本調査を基に個数を推定する	46.8			27.0
	(10)	条件を満たす自然数の個数を求める	20.9			42.0
	(11)	角の大きさを求める	47.2			53.1
	(12)	角の大きさを求める	47.6			78.8
	(13)	線分の長さを求める	40.1			90.8
	(14)	正四角錐の体積を求める	19.0			54.0
	(15)	水面の高さを求める	37.6			23.3
2	(1)	㉐ 方程式を立式する	37.9			
	(2)	ア イ 条件を満たす数を文字を用いた式で表す	80.9			
		ウ 整数の性質を文字を用いて説明する	47.3			
	(3)	条件を満たす作図をする	58.5			
	(4)	① 条件を満たす文字式を選択する	52.7			
② 2点を通る直線の式を求める		49.3				
3	(1)	角の大きさを求める	58.5			
	(2)	① ㉑ 条件に適する角を選択する	83.5			
		㉒ 証明を成り立たせる三角形の合同条件を書く	57.8			
	② 三角形の相似を証明する	39.6				
(3)	線分の長さを求める	5.4				
4	(1)	条件を満たす確率を求める	28.3			
	(2)	箱ひげ図から読み取れることを選択する	39.2			
5	I	(1) 条件を満たすyの値を求める	29.7			73.7
		(2) 条件を満たすグラフを選択する	23.0			
		(3) 条件を満たすxの値を求める	3.2			
	II	(1) 条件を満たすxの値を求める	63.4			26.3
		(2) 条件を満たすxの値を求める	4.1			
		(3) 条件を満たすxの値を求める	7.3			

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。
 ※大問1、5は学校選択の問題。選択率は、その問題を解くように指示された受検者の割合。

2 得点分布

得点分布表（数学）

年度 段階	令和7年度	令和6年度
90～100	1.5	0.0
80～ 89	6.2	7.5
70～ 79	14.2	12.0
60～ 69	16.5	17.8
50～ 59	8.6	13.3
40～ 49	12.4	14.1
30～ 39	14.3	12.6
20～ 29	11.3	13.3
10～ 19	9.0	6.6
0～ 9	6.0	2.9
計	100.0	100.0
平均点	47.6	48.7
標準偏差	23.5	21.3



3 現状の分析

- ① 大問1では、(1)、(2)、(3)、(5)、(6)で得点率が70%以上であり、基礎的・基本的な知識及び技能に関わる学習の成果が見られる。(12)円の性質を利用して、角の大きさを求めること、(13)中点連結定理を利用して、線分の長さを求めること、(14)展開図から立体の体積を求めることなど、数学的な思考力、判断力、表現力等を発揮して解決することに課題が見られる。
- ② 大問2(1)①の得点率は37.9%であり、具体的な場面に即して数量の関係を捉え、方程式をつくることに課題が見られる。(4)②の得点率は49.3%であり、変化や対応の特徴を捉え、式、グラフを相互に関連付けて考察することに課題が見られる。
- ③ 大問3(2)①⑥の得点率は58.4%、(2)②の得点率は53.6%（完全正答率 39.6%）であった。また、(3)の得点率は5.4%であった。図形の基本的な性質や定理を根拠とし、それらを基にして図形の性質を論理的に確かめたり、図形の性質を具体的な場面で活用したりすることに課題がみられる。
- ④ 大問4(1)の得点率は28.4%であり、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現することに課題が見られる。
- ⑤ 大問5は、図形上の点の動きに着目して考察する図形と関数の融合問題であった。得点率は、Ⅰ、Ⅱともに小問が進むにつれて低くなり、条件を満たす式やグラフをつくることに課題が見られる。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】 数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力をバランスよく育成する。

- ・数量や図形などについての理解を深めるとともに、数学的な技能の習熟を図る。
- ・数学的な思考力、判断力、表現力等を高める。
- ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考える態度を養う。

- ① 「数と式」の領域では、文字を用いた式の計算や方程式を解くことなどの数学的な技能について、一層の習熟を図りたい。また、大問2(1)、(2)のように、具体的な場面において、文字を用いた式を活用して問題解決する活動を重視したい。
- ② 「図形」の領域では、図形の基本的な性質や定理を正しく理解するとともに、それらを活用して問題解決する活動を重視したい。大問1(13)のように図形の性質を利用したり、大問3(2)のように条件を用いて論理的に考察したりする活動の充実を図りたい。
- ③ 「関数」の領域では、大問2(4)のように、式とグラフを関連付けて考察する活動の充実を図りたい。また、大問5のように、図形の変化の様子を的確に捉え関数に表すことについて、丁寧に指導する必要がある。
- ④ 「データの活用」の領域では、箱ひげ図から読み取れるデータの分布や傾向について、批判的に考察し判断する活動を重視したい。大問4(2)のような問題において、根拠を明らかにして説明する活動の充実を図りたい。

理 科

1 小問別の完全正答率と得点率

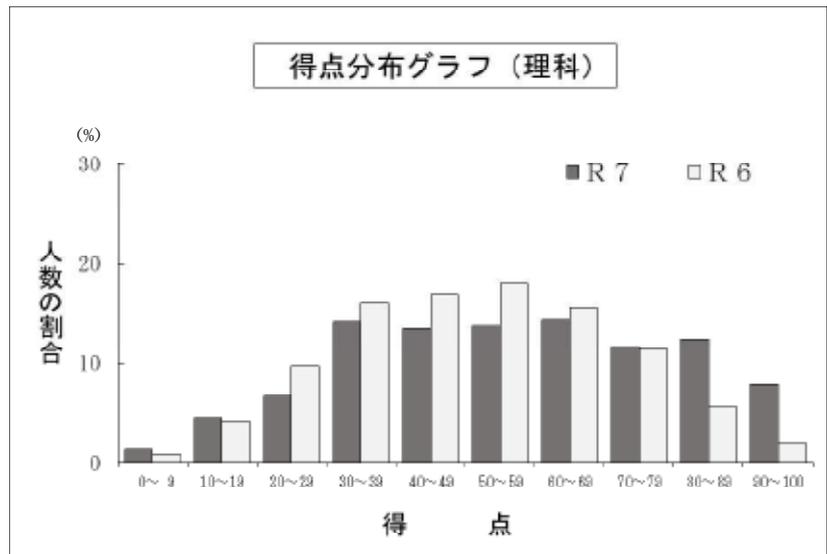
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	(1)	被子植物を選択する	70.4												
	(2)	被子植物に見られる構造について答える	80.5												
	(3)	①	実験操作の目的について選択する	94.4											
		②	花粉から伸びる管の名称を答える	61.9											
		③	X	花粉管のはたらきについて説明する	53.5										
Y	被子植物の発生について答える		46.7												
2	(1)	化学変化について説明する	58.2												
	(2)	鉄粉と結びつく気体を化学式で表す	51.6												
	(3)	水溶液の溶媒の質量を求める	33.2												
	(4)	X	発生した気体の性質を答える	80.1											
		Y	発生した気体の名称を答える	81.8											
	(5)	周囲から熱をうばう化学変化を答える	79.0												
(6)	化学変化による熱の放出を利用しているものを選択する	77.5													
3	(1)	岩石の種類を答える	46.7												
	(2)	岩石に含まれる鉱物の種類を選択する	40.9												
	(3)	①	水溶液の冷え方について答える	57.2											
		②	岩石ができた場所や岩石のもとになったマグマの性質について説明する	59.7											
	(4)	X	岩石の種類を選択する	52.2											
Y		岩石の種類を判断した理由を説明する	29.3												
4	(1)	導体でできているものを選択する	82.0												
	(2)	針のふれが異なる理由について説明する	42.8												
	(3)	発光ダイオードの特性について説明する	49.7												
	(4)	①	電磁誘導によって流れる電流について答える	53.1											
		②	電力量にかかる料金を求める	12.2											
5	(1)	①	自ら光や熱を出す天体について答える	82.4											
		②	地球から見ると月によって太陽がかくされる現象について答える	66.6											
		③	光が太陽から地球に到達するまでの時間を求める	53.3											
	(2)	①	水面に反射して見えた像を選択する	46.0											
		②	光の反射の法則について説明する	64.0											
		③	水面に反射した光の道筋を図示する	40.9											
6	(1)	①	双眼実体顕微鏡の操作について答える	6.6											
		②	植物における水の通り道を選択する	64.9											
		③	茎のつくりについて答える	68.3											
	(2)	①	水にとかしたときに電流が流れる物質について答える	83.9											
		②	ダニエル電池におけるイオンの量の変化を表すグラフを選択する	37.9											

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表(理科)

年度 段階	令和7年度	令和6年度
90～100	7.9	1.9
80～89	12.4	5.6
70～79	11.6	11.4
60～69	14.4	15.5
50～59	13.7	18.0
40～49	13.5	17.0
30～39	14.1	16.0
20～29	6.6	9.7
10～19	4.5	4.1
0～9	1.3	0.8
計	100.0	100.0
平均点	56.8	51.9
標準偏差	23.1	18.7



3 現状の分析

- ① 今年度の得点分布は、昨年度と比べ、70点以上の割合が13.0ポイント増加し、39点以下の割合が4.1ポイント減少している。
- ② 観点別の完全正答率は、「知識・技能」が64.5%、「思考・判断・表現」が46.8%である。特に「知識・技能」のうち、用語を記述する問題の完全正答率が67.9%であることから、普段の学習において基礎的・基本的な知識及び技能の習得が図られている成果と言える。
- ③ 領域別の完全正答率は、化学的領域が64.8%、生物的領域が60.8%、地学的領域が54.3%、物理的領域は48.8%である。物理的領域の完全正答率が比較的低かった。
- ④ 大問4(2)の針のふれが異なる理由を説明する問題では、完全正答率が42.8%である。棒磁石の磁力の強さと生じる誘導電流の大きさとの関係について、理解する力が十分とは言えない。
- ⑤ 大問6(2)②のダニエル電池におけるイオンの量の変化を表すグラフを選択する問題では、完全正答率が37.9%である。電極における変化をイオンと関連付けて解釈する力が十分とは言えない。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】科学的に探究する力を育成するために

- ・理科の見方・考え方を働かせ、結果を分析して解釈する学習活動の充実を図る。
- ・目に見えない自然の事物・現象を、図やモデル等を用いて表現する学習活動の充実を図る。

- ① 大問4(2)のように、理科の見方・考え方を働かせ、結果を分析して解釈することができるようにするためには、複数の観察や実験、調べたことなどの結果を図や表などの形式で表し、生徒が比較したり関連付けたりして考え、関連性や規則性を見いだすことができるように促す必要がある。その際、量的・関係的な視点などの理科の見方・考え方を働かせ、考察した内容が妥当かどうかを検討できるようにすることが大切である。
- ② 大問6(2)②のように、目に見えない自然の事物・現象について実感を伴った理解が図られるようにするためには、「化学変化と電池」の内容においては、電極で起こる反応をイオンと関連付けて考察できるように促す必要がある。その際、粒子をモデル等で表して考えたり説明したりする学習活動の充実を図ることが大切である。

英 語

1 小問別の完全正答率と得点率

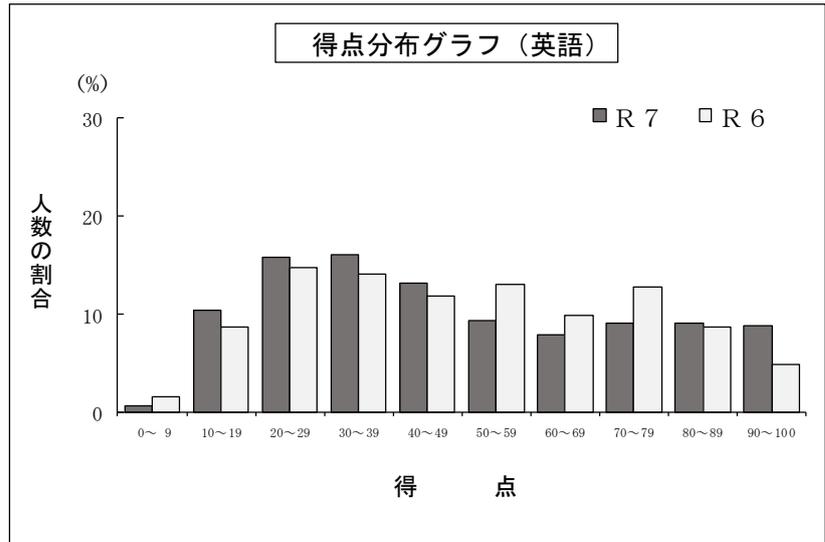
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)												
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100		
1	(1)	①	短い会話を聞いて要点を捉える	96.4												
		②	短い会話を聞いて要点を捉える	89.2												
	(2)	①	会話を聞いて適切に応答する	53.5												
		②	会話を聞いて適切に応答する	56.7												
		③	会話を聞いて適切に応答する	41.5												
	(3)	質問	まとまりのある会話を聞いて概要を適切に捉える	51.9												
		職業	まとまりのある会話を聞いて要点を適切に捉える	46.5												
	(4)	①	日常的な話題について、概要を適切に捉える	52.4												
		②	日常的な話題について、必要な情報を適切に聞き取る	31.2												
		③	日常的な話題について、要点を適切に捉える	45.6												
2	(1)	①	文脈に応じて語形を変化させる (例) 複数形 children	74.0												
		②	文脈に応じて語形を変化させる (例) 動名詞 watching	60.7												
		③	文脈に応じて語形を変化させる (例) 過去形 felt	48.1												
	(2)	①	必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる (例) Which is taller	45.6												
		②	必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる (例) I was helping	41.5												
		③	必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる (例) where she is	34.5												
3	(1)	①	条件に合う単語を書く (例) interested	42.7												
		②	条件に合う単語を書く (例) listen to	43.1												
		③	条件に合う単語を書く (例) have been	39.7												
		④	条件に合う単語を書く (例) to write	21.2												
	(2)	条件に応じて、英語で質問する	42.2													
4	(1)	①	内容を正確に読み取り、適語を選ぶ	58.2												
		②	内容を正確に読み取り、質問に適切に答える	56.9												
		③	内容を正確に読み取り、要点を適切に捉える	61.4												
		④	内容を正確に読み取り、文脈に応じて適語を選ぶ	41.1												
	(2)	賛成又は反対の立場で、理由と共に意見を述べる	6.8													
5	(1)	①	①	内容を正確に読み取り、要点を適切に捉える	36.5											
			②	内容を正確に読み取り、要点を適切に捉える	68.1											
		③	ウ	内容を正確に読み取り、要点を適切に捉える	72.9											
			エ	内容を正確に読み取り、要点を適切に捉える	77.2											
		④	文脈を捉え、英文を完成する	16.3												
	(2)	①	①	文章の要点を読み取り、内容を日本語で説明する	24.6											
			②	内容を正確に読み取り、要点を適切に捉える	63.9											
			③	内容を正確に読み取り、要点を捉える	43.8											
		④	ア	文章の概要を読み取り、本文の内容を捉える	37.9											
			オ	文章の概要を読み取り、本文の内容を捉える	47.4											

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（英語）

年度 段階	令和7年度	令和6年度
90～100	8.8	4.8
80～89	9.0	8.7
70～79	9.0	12.8
60～69	7.9	9.9
50～59	9.3	13.0
40～49	13.1	11.8
30～39	16.0	14.1
20～29	15.8	14.7
10～19	10.4	8.7
0～9	0.7	1.5
計	100.0	100.0
平均点	49.8	49.9
標準偏差	25.4	23.7



3 現状の分析

平均点は49.8点であった。大問4の英作文の得点率が、昨年度から5.4%上昇した。論理的に表現する言語活動の充実による成果であると言える。一方で、大問1のリスニングでは、聞き取った情報を整理して要点を把握することに、大問3では、基本的な表現を活用することに、それぞれ課題が見られた。日頃の授業において、実際のコミュニケーションの場面を想定した言語活動の充実を図ることにより、「聞くこと」と「書くこと」の指導の充実を図ることが求められる。

- ① 大問1における平均得点率は56.5%であった。会話や説明などを聞いて、概要や要点を捉えることにはまだ改善の余地があり、聞き取った情報を整理することに重点を置いた指導が求められる。
- ② 大問2では、適切な語句を補って英文を完成させる問題の得点率が41.3%と低く、文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することに課題が見られる。文脈に応じた言語使用に重点を置いた指導が求められる。
- ③ 大問3では、マッピングを見ながら発表の英文を完成させる問題の得点率が37.5%と低かった。言語活動を通して、活用頻度の高い基本的な語句や表現の定着を図る指導が必要である。
- ④ 大問4では、話し手の考えを理解し、要点を捉える設問の得点率が61.4%と高かった。表現力を更に高めるために、会話の流れに応じて関連する質問をしたり、理由とともに英語で答えたりする場面を様々な言語活動の中に設定するなど、即興で表現する力を育成する指導が必要である。
- ⑤ 大問5では、英文から抽出した情報の活用で課題が見られた。読解の精度の高まりを感じる一方で、英文から抽出した情報の活用で主眼を置いた(1)の得点率は44.4%であった。思考力、判断力、表現力等を発揮し、得られた情報を整理・吟味する指導が求められる。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】

- ・言語活動を通して、正しく語彙と文法事項を活用し、知識及び技能の定着を図る。
- ・生徒が目的等に応じて知識及び技能を活用し、思考・判断・表現する多様な場面を設定する。

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、具体的な目的や場面、状況等に応じて、既習の語彙や文法を実際のコミュニケーションにおいて活用し表現させることが重要である。ペアワークやグループディスカッションを通じて、言語材料と言語活動を効果的に関連付け、生徒が自然に語彙と文法を用いることを促していくことが重要である。
- ② 生徒が既習表現を活用する機会の充実を図り、思考・判断・表現することにより学びを深めていくことが求められる。また、生徒が主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立て、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定することも必要である。

授業改善へ向けての課題と提言

〈国 語〉

文章の構成や論理の展開、表現の仕方に着目して読み、具体と抽象の関係性などを踏まえて内容を解釈する学習の充実

大問三4は、文章の構成や論理の展開に着目して読み、与えられた条件にしたがって文章の内容をまとめる設問である。文章全体を俯瞰して論理の展開を捉えるとともに、指定された条件にしたがって筆者の主張を再構築する力がポイントとなる。

日常の指導では、文章の構成や筆者の主張と根拠、表現の仕方について考える学習の充実を図りたい。その際、文章中の具体と抽象の関係性などを捉えて、別の言葉で置き換えられている表現に着目したり自分の言葉で言い換えたりしながら、文章の内容を解釈するとともに、筆者のものの見方や考え方に深く迫ることができるような授業づくりを心掛けたい。

複数の場面を結び付け、登場人物の心情や話の展開についての読みを深め、文学的な文章を読み味わう学習の充実

大問四4(3)は、登場人物の心情や話の展開について考える設問である。複数の場面を結び付け、本文中の象徴的な表現や会話文中の言葉を手掛かりにしながら、登場人物の心情や言動の意味について解釈し、適切に表現することが求められる。

日常の指導では、それぞれの場面から直接分かることを把握するだけでなく、作品全体を俯瞰して複数の場面や描写を結び付けたり、複数の人物の言動を対比したりするなどして、表現の効果や登場人物の言動の意味について思考を深め、場面や描写に新たな意味付けを行うことを大切にしたい。また、本文の叙述を根拠として自分の解釈をまとめる活動や、互いの解釈を交流する活動を通して、考えを広げたり深めたりしながら文章を深く読み味わうような授業づくりを心掛けたい。

学力検査問題から

大問三

4 「創造」を生み出すとあるが、「創造」はどのように生み出されるのか。「無意識」「ネットワーク」という語句を用いて、

解答欄にしたがって五十文字以内で書きなさい。

(正答例)

考えるたびに、無意識の中の記憶が結びついたネットワークに、その人の好みや美意識が反映された良質な記憶がつくられること
によって「創造」は生み出される

(完全正答率) 10.1% (得点率) 32.8%

大問四

4 次は、本文中の「火」に関連する表現について話し合っている生徒A、B、Cの会話である。「国語辞典での説明」と会話を読んで、後の問いに答えなさい。

A 真嶋もきつと、繭生に「同じ色の火」を見いだしているよね。この表現から、演芸写真家として、「見る人に「d」という真嶋と繭生の強い意志を読み取ることができるね。

(会話部分一部省略)

(3) 「d」に適する内容を、「芸」という語句を用いて、三十文字以内で書きなさい。

(正答例)

目には見えないはずの芸を感じさせる写真を撮り続けていく

(完全正答率) 10.7% (得点率) 29.6%

〈社 会〉

諸資料から必要な情報を的確に読み取り、比較したり関連付けたりしながら、多面的・多角的に考察する活動の充実

大問2(4)は、東京圏に属する1都3県における人口移動の特色を、事業所数と大学数、昼夜間人口比率を示した2つの資料から読み取り、それらを関連付けて説明する問題である。指導に当たっては、複数の資料から有用な情報を読み取り、習得した知識や概念を活用して、比較したり、関連付けたりしながら、多面的・多角的に考察していく活動を充実させることが大切である。

諸資料を活用して、歴史的事象の意味や意義、特色、事象間の関連を多面的・多角的に考察し、表現する活動の充実

歴史的分野では、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて捉えることが求められる。指導に当たっては、年表や地図、文献、図版などの諸資料から必要な情報を読み取り、まとめる技能を身に付けさせるとともに、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連などを多面的・多角的に考察し、適切な用語を用いて表現する活動を充実させることが大切である。

読み取った事実と習得した知識を関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する活動の充実

大問4(7)は、我が国の選挙の課題について図から読み取った内容を基に、条件に従って説明する問題である。指導に当たっては、学習内容の片面的な理解にとどまらず、生徒が一つの資料を複数の視点から捉えた上で、多面的・多角的に考察し、より深く理解するための手立ての充実を図ることが大切である。

学力検査問題から

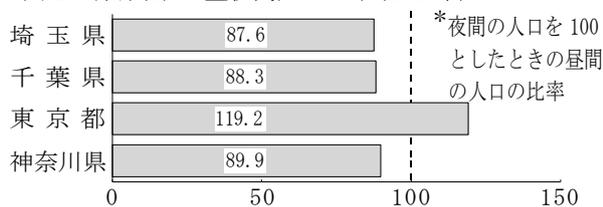
大問2(4)

表2と図2は、地図に示した東京圏の都県に関するものである。他県と比較した東京都の特色を、表2と図2から読みとれることを関連付けて書きなさい。

表2 東京圏の事業所数と大学数(2021年)

都県	項目	事業所数	大学数
埼玉県		235 126	27
千葉県		187 530	27
東京都		636 132	143
神奈川県		289 668	31

図2 東京圏の*昼夜間人口比率(2020年)



(表2, 図2は「データでみる県勢2024年版」などから作成)

(正答例) 事業所数や大学数が多く、周辺の県から通勤や通学で人が集まるため、昼夜間人口比率が高い。

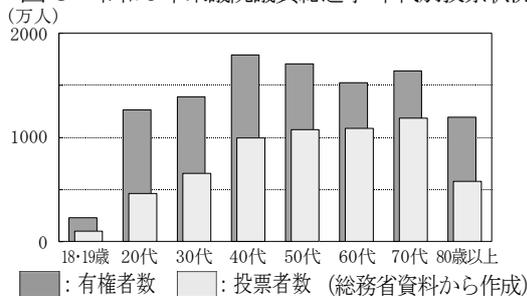
(完全正答率) 49.0% (得点率) 72.9%

大問4(7)

Dに入る適切な内容を、次の語を用いて書きなさい。〔投票率〕

◇図3で年代別の投票者数を比べると、例えば、70代は20代より投票者数が約**C**倍多い。また、30代以下は40代以上の年代よりも有権者数が**D**ため、民意が選挙結果に反映されにくくなることなど、民主主義に関わる課題が見られる。

図3 令和3年衆議院議員総選挙年代別投票状況



(正答例) 少なく、投票率が低い

(完全正答率) 61.7% (得点率) 71.3%

〈数 学〉

変化や対応の特徴を捉え、式とグラフを相互に関連付けて考察し表現する場面の設定

大問 2 (4) ②は、代入により求めた反比例のグラフ上の点の座標を利用して、2点を通る直線の式を求める問題である。主な誤答は、「切片が1である1次関数の式」が10.6%、切片が1以外の1次関数の式が9.6%、「1次関数の式の形で表されていないもの」が15.9%で、無解答率は14.6%であった。授業では、条件を整理した上で、答えを予想し、解決の見通しを立てられるようにしたい。傾きの求め方については、増加量に着目する方法や直線の式に値を代入して求める方法など、それぞれの方法のよさを実感できるように、式とグラフを相互に関連付けて考察し、表現する場面を設定したい。また、求めた直線の式が適切かどうか確かめる機会を、意図的に設定したい。

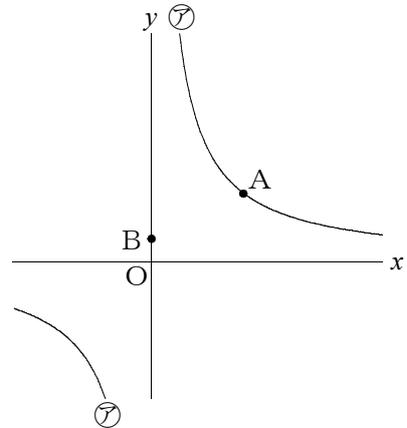
証明の方針を立て、根拠を明確にして論理的に説明する活動の充実

大問 3 (2) ②は、平面図形の基本的な性質を利用して三角形の相似を証明する問題である。主な誤答は、「根拠の記述が不十分なもの」が19.9%、「辺について記述しているもの」が14.1%で、無解答率は15.6%であった。授業では、証明の方針を立てる場面を大切にするとともに、根拠を明らかにして説明する活動の充実を図りたい。また、必要に応じて、具体物を操作する活動を取り入れることにより、等しい辺や角について、実感を伴った理解につなげたい。なお、証明を書くことについては、第2学年の合同から第3学年の相似までを見通し、次第に簡潔・明瞭なものとなるよう、段階的に指導する必要がある。

学力検査問題から

大問 2 (4) ②

右の図において、⑦は関数 $y = \frac{12}{x}$ のグラフである。点Aは⑦上の点で、 x 座標は4である。点Bは y 軸上の点で、 y 座標は1である。このとき、2点A、Bを通る直線の式を求めなさい。



(正 答) $y = \frac{1}{2}x + 1$

(完全正答率) 49.3%

大問 3 (2) ②

優さんの説明を聞いた光さんは、図3のように、点Cが2点A、Bを除く辺AB上にくるように折り返す場合について考えた。辺ADと線分PHの交点をIとする。[光さんの説明]が正しくなるように、[証明]の続きを書き、完成させなさい。

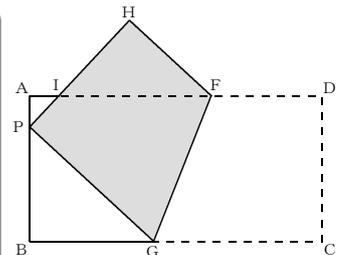
[光さんの説明]

図3で、 $\triangle API$ と $\triangle HFI$ が相似であることが証明できます。

[証明]

$\triangle API$ と $\triangle HFI$ において

図3



(正 答) 証明省略

(完全正答率) 39.6%

(得点率) 53.6%

〈理科〉

理科の見方・考え方を働かせ、結果を分析して解釈する学習活動の充実

大問4(2)は、磁力が異なる棒磁石を用いたときの、検流計の針のふれが異なる理由を説明する問題である。

生徒のつまずきの要因としては、棒磁石の磁力の強さと生じる誘導電流の大きさとの関係について理解が不十分であることが考えられる。

授業においては、条件を変えて複数の実験を行い、その結果を分析して解釈する活動を通して、生徒が規則性を見いだすことができるように促す必要がある。その際、量的・関係的な視点で、考察した内容が妥当かどうかを検討できるようにすることが大切である。

目に見えない自然の事物・現象を、図やモデル等を用いて表現する学習活動の充実

大問6(2)②は、プロペラが回転しているときの、亜鉛イオン及び銅イオンの数の変化を表すグラフを、それぞれ選択する問題である。

生徒のつまずきの要因としては、電極で起こる反応や、イオンへのなりやすさが異なることについて、理解が不十分であることが考えられる。

授業においては、電極で起こる反応をイオンと関連付けて考察できるように促す必要がある。その際、イオンのモデルを用いて考えたり説明したりする学習活動の充実を図ることが大切である。

学力検査問題から

大問4(2)

【実験I】図1のような回路をつくり、N極を下にした棒磁石Pの動かし方を変えて、検流計の針のふれをそれぞれ調べた。次に、棒磁石Pのかわりに、棒磁石Pより磁力が強い棒磁石Qを用い、同様に調べた。表1は、それぞれの結果を示したものである。

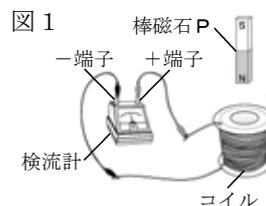


表1

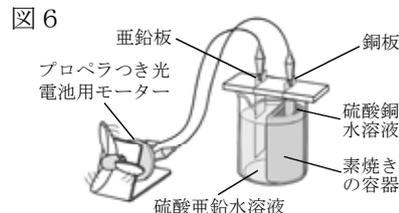
棒磁石の動かし方		針のふれ	
		棒磁石 P	棒磁石 Q
A	コイルの上からN極を近づける	右に、2目盛り	右に、3目盛り
B	コイルの上にN極を近づけたまま動かさない	ふれない	ふれない
C	コイルの上からN極を遠ざける	左に、2目盛り	左に、3目盛り

(2) 表1のA、Cについて、棒磁石Pと棒磁石Qを比較したとき、検流計の針のふれが異なったのはなぜか、「磁力の強い磁石を用いると、」に続けて書きなさい。

(正 答) 磁力の強い磁石を用いると、大きい電流が流れるため
(完全正答率) 42.8%
(主な誤答例) 針のふれが大きくなったため
電流の向きが変わったため

大問6(2)②

【実験】ビーカーに硫酸亜鉛水溶液と亜鉛板を入れた。硫酸銅水溶液と銅板を入れた素焼きの容器を、図6のようにビーカーに入れ、銅板と亜鉛板にプロペラつき光電池用モーターをつないだところ、プロペラが回転した。しばらくして銅板を観察したところ、表面に赤茶色の固体が付着していた。



しばらくして銅板を観察したところ、表面に赤茶色の固体が付着していた。

② 次のうち、プロペラが回転しているときの、時間の経過にともなうビーカー内にふくまれる亜鉛イオンの数の変化と銅イオンの数の変化を表すグラフはどれか、最も適切なものをそれぞれ1つ選んで記号を書きなさい。



(正 答) 亜鉛イオン：E 銅イオン：I
(完全正答率) 37.9%
(主な誤答例等) 亜鉛イオン：I 銅イオン：E
亜鉛イオンのみ正答 (5.4%)
銅イオンのみ正答 (15.4%)
どちらも誤答 (39.8%)

〈英 語〉

日常的な話題について、必要な情報を聞き取る力を養う指導の充実

大問1(4)は、まとまりのある英語を聞いて、その後の質問に答える問題である。日常的な話題について、概要を捉える①の完全正答率は52.4%であったが、必要な情報を聞き取る②の完全正答率は31.2%であった。

授業においては、日常的な話題について、話されることの全てではなく、目的に応じて知りたいことや欲しい情報などの必要な情報を聞き取る活動を充実させる必要がある。「店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンス」といったものを教材に取り上げ、必要な情報を聞き取って整理することにより、思考力、判断力を養う指導の充実を図りたい。

既習の言語材料を活用し、生徒自身が思考・判断して表現する力を養う指導の充実

大問3(1)はマッピングを基に、適切な表現を自分で考えて英文を完成させる問題である。特に不定詞を用いた文については、完全正答率が低いことに加えて、無解答率が8.8%であり、定着に課題が見られる。

メモを活用しながら日常的な話題等について伝え合う活動を行う際は、内容を伝え合うことを重視しながら、言語活動を通して英語使用の正確さを高めていくことが必要である。生徒の学習状況に応じて、多くの生徒に共通する誤りを全体で共有し、その修正方法について考えたり、口頭で伝え合った内容を書いて振り返ったりするなどの活動を設定し、生徒自身が誤りに気付き、正しい表現に修正することができるように指導することが大切である。実際のコミュニケーションにおいて繰り返し活用することを通して、言語材料の定着を図りたい。

生徒が情報を整理・吟味し、目的に応じて活用する力を養う指導の充実

「スピーチへのアドバイス」に関する英文を題材に、思考力、判断力、表現力等を問う問題である。大問5(1)①は英文から得られる情報を取捨選択しながら目的に応じて活用し、アドバイスの内容とその助言者を判断する問題である。

授業においては、読み取った情報の活用能力を高めるために、目的に応じて読むことに取り組ませることが大切である。さらにその英文から得た情報を基に、その内容を要約して話したり書いたりするなど、読むこと以外の技能を駆使して活用させ、主体的な読み手へと導くことが大切である。

学力検査問題から

大問1(4)②

(メッセージを聞き、質問に対する答えとして最も適切なものを選ぶ問題)

<読まれる英文(一部抜粋)>

I leave school at three, go to the park at four and practice for two hours.

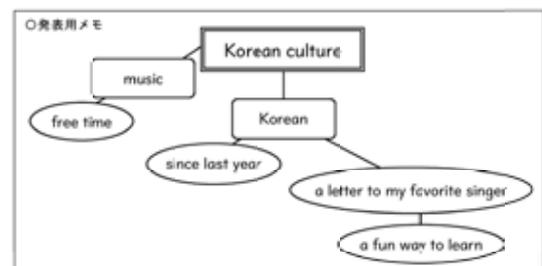
Question: What time does Jun finish practicing soccer in Australia?

(正 答) E At six.

(完全正答率) 31.2%

大問3(1)④

興味があることと発表用メモから考えて、真美の発表の①～④に入る適切な英語を、それぞれ1語または2語で書きなさい。



<英文(一部抜粋)>

I'm trying (④) a letter in Korean to my favorite singer.

(正 答 例) to write

(完全正答率) 21.2% (得点率) 22.6%

大問5(1)①

次の英文は結衣が Mei, Ren, Shun のいずれかからもらったアドバイスです。誰のアドバイスか、人名を英語で書きなさい。

(本文略)

Advice

- How many opinions do you have? A good speech should have one opinion.

(正 答) Mei (完全正答率) 36.5%